

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP広島IIプロジェクト	階数	地上5F
建設地	広島県広島市	構造	S造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	374 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年1月 竣工	評価の実施日	2023年3月3日
敷地面積	23,107 m ²	作成者	—
建築面積	13,782 m ²	確認日	2023年3月6日
延床面積	49,792 m ²	確認者	五洋建設株式会社 林



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.8

機能性: N.A. 耐用性: 3.3 対応性: 4.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境: 1.0 まちなみ: 3.0 地域性・地域外環境: 2.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の: N.A. 自然エネ: 3.0 設備システ: 5.0 効率的: 2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源: 3.4 非再生材料の: 3.4 汚染物質: 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.9

地球温暖化: 5.0 地域環境: 3.5 周辺環境: 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	建物を構成する部材などリサイクル材を使用したり、太陽光発電で自然エネルギーを利用し省エネルギー性を高め全体的に環境に配慮した物流倉庫としている。	その他 0
Q1 室内環境	評価対象外	Q3 室外環境(敷地内) まちなみや景観を損なわない外観計画をしている。
LR1 エネルギー	太陽光発電を設けて自家消費し、建物全体の省エネルギー性を高めている。	LR3 敷地外環境 周囲への環境に害を及ぼさないように、適切な量の緑化を行ったり、駐車場や車路の確保、屋外広告を設置しないなど対策を行っている。
Q2 サービス性能	仕上材や設備機器は耐用年数が高いものを採用している。災害などの際は建物の機能を損なうことなく使用できる。	
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用したり、リサイクル材を使用、分別がしやすい部材を用いるなど、環境に配慮した計画をしている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
GLP広島IIプロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.8	
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能					0.43			3.8	
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性				3.3	0.50			3.3	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法による耐震性を有している。		3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑える装置を導入していない。		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				4.2	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		劣化等級3相当(鉛系錆止ペイント)		5.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		フッ素系塗装SGL(耐火インソバンドPro):25年		4.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:20年 壁下地:30年 天井:40年		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		亜鉛鉄板		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:B 給湯:C 雑排水:B		4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		屋外キュービクル 20年		4.0	0.20				
2.4 信頼性				2.8	0.20				
1 空調・換気設備		中央式空調換気設備がない		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		節水型器具を採用・配管の系統分け・受水槽に蛇口		4.0	0.20				
3 電気設備		非常用発電設備を設置・電源設備・精密機械を地上階に設置		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		-		1.0	0.20				
5 通信・情報設備		精密機械を地上階に設置・ケーブルTVを設置		3.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.3	0.50		-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1 階高のゆとり		階高 6.4~7.95m	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ合計 587.90m 専用面積 11344.47㎡	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		倉庫床荷重 15000N/㎡	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1 空調配管の更新性		中央式空調設備を持たない。	3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		修繕:部材を傷めない。更新:部材を傷める。	3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		ケーブルラックを使用	5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		ケーブルラックを使用	5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		更新ルートを確認している。	3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保		バックアップスペースを確保していない。	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57		-	2.1
1 生物環境の保全と創出		-	1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		屋外設備機器は周囲から見えない位置に配置している。	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		防犯カメラの設置	2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		排熱機器はGL+26.33mに設置し、燃焼機器を設置していない。	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		-	-	-		-	-
2 自然エネルギー利用		自然エネルギーの利用は採用していない。	3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 0.01 (BELS取得予定 2023/4)	5.0	0.63		-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.25		-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00		-	
4.1 モニタリング		建物で消費される各種エネルギー消費量把握している。	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		-	1.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング		-					
4.2 運用管理体制		-					
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水型便器を採用している。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用システムの導入をしていない。	3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		雑排水利用システムの導入をしていない。	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60		-	3.4
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		既存躯体を使用していない。	3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		躯体材料にリサイクル材を使用していない。	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材	3.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LSG地下採用により容易に分別が可能	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		建材について汚染物質を含有しない確認をしていない。	3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1 消火剤		-	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		押出法ポリスチレンフォーム ODP:0 GWP:3	4.0	0.50		-	
3 冷媒		冷媒ガスR410Aを使用	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.9
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率に基づくスコア換算 5.0	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		風通しに配慮 LR1エネルギースコア 4.0	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		雨水抑制量 357.18㎡ 雨水貯留槽容量 368.60㎡	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		下水道法・広島市下水道条例の排出基準を満たしている。	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		駐輪・駐車量は適切な量を確保している。	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミ置場を配置している。	1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音		規制対象外	3.0	1.00		-	
2 振動		-	-	-		-	
3 悪臭		-	-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制		対策を行っていない。	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		-					
3 日照阻害の抑制		日影規制が無い。	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの過半をみたしている。	5.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		反射光の発生を低減させる取組を行っていない。	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 1.5%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 65歳以上ベント 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 25 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 6.4 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 5.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 15000 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 15% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 40% 水平投影面積率 3% 地表面対策面積率 6% 舗装面積率 31%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 - 住宅 - 太陽光 566.7kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 断熱材 エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 107% 隣棟間隔指標Rw 1.05 地表面対策面積率 7.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 3,300㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 149.84 m 基準高さHb 20.57 m 緑地 1,305㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡